



お母さんの「おっぱい」が大きいのはなぜ

赤ちゃんにお乳を飲ませるため

生まれたばかりの赤ちゃんは、まだ歯も生えていないので、ご飯などの食べ物を食べることができません。そのかわりに、お乳をたくさん飲みます。

お母さんのように、女の人のおっぱいは、赤ちゃんに大切なお乳を飲ませるために大人になると大きくなるのです。

お母さんのお乳の中には、赤ちゃんが元気で育つように、たくさんの栄養分のほかに、赤ちゃんが、病気にならないようにするためのものも、入っています。

「おっぱい」が大きくなるのは

子どもからおとなになるとちゅうに、思春期という時期があります。

思春期とは、子どもの時代から、おとなの時代へと変化していく時期で、女の子から大人の女性へ、男の子からおとなの男性へと、体や心が変化していく時期です。

女の子では、だいたい9才から14才くらいの間に、男の子ではだいたい10才から14才くらいの間に始まりますが、人によってちがっています。しかし、18才から20才になるころには、だれもが同じようにおとなの体になっています。

思春期になると、女の子の場合は卵巣で女性ホルモンがつけられるようになり、体がふっくらとしてきたり、お乳がふくらんで大きくなってきたりします。

お母さんのおっぱい大きいのは、赤ちゃんを産んで、お乳を飲ませることができるように、おとなの体になっているためです。（監修・保志 宏）

